

Direct-Information of Orienteering in Nippon

(公社) 日本オリエンテーリング協会 理事会・事務局便り



第10号 (2018年7月25日発行)

夏の世界選手権シーズンに入り、マウンテンバイクOとフットOのマスターズで優勝・入賞の快挙がありました。また、JWOC、WUOCでも若い選手たちが健闘しました。

8月にはフットOとトレイルOの世界選手権もありますので、声援よろしくお祈いします。

●本号の内容

- ・世界マスターズマウンテンバイクO選手権 羽鳥和重さんが優勝・準優勝
- ・世界マスターズオリエンテーリング選手権
- ・理事会報告
- ・JOA総会後の「懇話会」について
- ・第1回イベントアドバイザー研修会のお知らせ

●世界マスターズマウンテンバイクO選手権 羽鳥和重さんが優勝・準優勝

ハンガリーで開催された世界マスターズマウンテンバイクO選手権にて、羽鳥和重さんがM50クラスのロング種目で準優勝、ミドル種目で優勝されました。おめでとうございます。

羽鳥さんはMTBOだけでなく、国内のシクロクロスやMTBクロスカントリーでも上位に入賞し続ける第一人者でもあります。今大会で世界の舞台の頂点に立たれました。

8/5-8/13にはオーストリアでの世界選手権にも出場予定です。応援よろしくお祈いします。



(ミドル表彰は代理人)

ロング結果

1 Killian Lomas	1:55:53
2 Kazushige Hatori	1:55:54
3 Olli Savikko	2:06:06

ミドル結果

1 Kazushige Hatori	1:02:41
2 Andy Conn	1:03:03
3 Joern Svensen	1:05:09

●世界マスターズオリエンテーリング選手権

7/7-7/13、デンマークで開催された世界マスターズオリエンテーリング選手権にて、高橋厚さんがスプリント種目のM85Aクラスで3位に入賞されました。おめでとうございます。

1 Martin Hutzli	11:26
2 Peo Bengtsson	12:13
3 Atsushi Takahashi	13:16



●理事会報告（副会長：村越）

7月7日、第18回理事会が開催されました。通常の理事会は5月と2月の開催ですが、今回は各委員長が出席し意見交換をする中で、活動の更なる活性化や整理を図る「理事会＋委員長会議」の形で行われました。

細部についてはJOAのサイトに掲載予定の議事録をご覧ください。

(<http://www.orienteering.or.jp/joa/works.php>)

今回の重要な議題は会員支援規程の改定でした。2年前の財政改革では、会費からの組織育成費の返還をなくす代わりに、財政的に厳しい会員に会費支援を行うこととしました。その財源として公認大会参加費に1000円～500円の支援金を上乗せしています。参加費としては実質大幅値上げを懸念する声が聞かれましたが、オリエンティアの皆様のご理解と協力により、毎年会員支援に十分な額の支援金が確保されています。プール額が100万円を超えた際には内容を見直すという規定があることから、今回の支援金の収集方法と配分方法についての改定が行われ以下の内容で承認されました。

支援金の収集方法が公認のロングは1000円、ミドル及びスプリントは500円に変更されます。公認A/Bでもミドルの場合は500円となります。また支援を必要とする会員/協会に対して、公認大会を開催した場合、協会が会員/非会員であることに関わらず集まった支援金を渡すこと、学連登録者がいる場合には、500円/人を支援すること（現状では学生登録者は各会員に配分金がないため）、新規会員/復活会員に対しては3年間、会費分の支援を行うこととなります。

公認大会に参加している皆様のお陰で、会員数や活動の少ない会員の存立が守られていることを、改めてお伝えします。

日本のオリエンテーリング界の頂点である全日本大会については、次期プロデューサーの西村徳真氏より、2019年度から秋へ大会を移行し、2019年においては全日本ミドルと全日本ロングの二日間大会とする提案が出され、承認されました。一方で、この移行に伴い、2019年の初夏に行う2018年度的全日本大会がスキップされる見込みでした。これに関して、これまで2回的全日本大会のプロデューサーを務めた山川克則氏より、2018年度的全日本大会を5月に開催請負をする旨の提案がなされ、業務執行理事会で、その可否を検討し、7月中には結論を出すこととなりました。

山川氏は、2016、2017年度（それぞれ開催年は2017、2018年）の全日本大会をプロデューサーとしてお引き受けいただき、ロングコースとはどのようなものであるべきか、ナビゲーションスポーツの頂点であるオリエンテーリングコースとはどのようなものかを含めたイベントプロデュースをしていただきました。JOAとして謝意を申し上げるとともに、日本一を決めるにふさわしい大会を今後も育てていくことがJOAに課された使命であることを再確認しました。

午後の委員長も交えた討議では、公認大会のエリートクラスに関する規則を、抜本的に改正することの方針についての提案が業務執行理事の平島俊次氏、競技委員長の広江淳朗氏よりなされました。この改正案は、一般の公認大会のEクラスを廃止し、最上位クラスをAクラスとするものです。これにより、公認大会では特に資格はなくても、最高位のクラスに出られること、全日本大会のEクラスへ短期間で上がれる可能性があることなど、競技者への高い動機付けになることが説明されました。これについては、満場一致で承認しました。公表後、競技者の反応を踏まえて、2月の理事会で正式決定する予定です。

●「懇話会」について（副会長：村越）

ここ数年、年1回の総会時には、会員とJOA理事らとの懇話の時間を設けています。現在の法人になって以来、総会は年1回となりました。その一方で、JOAの様々な面での改革も進んでいます。総会では決められた議事（決算と事業報告の承認）という制約があることから、JOA執行部と会員で自由に情報や意見を交換し、相互理解を深めようと設定されたものです。

今回の懇話会の主要なトピックは「会員支援規程」の見直しでした。2年前の財政改革によって、JOAの財政は健全な状態に達し、また組織育成費を廃する代わりに設定した、財政的に困難を抱える会員への支援経費も必要額を超えて集まるようになりました。このことから、支援のための財源を見直すと同時に支援を強化することを検討していますが、この点についての意見交換が行われました。

理事会からは平島業務執行理事、新帯業務執行理事が主たる回答者となり、千葉県、和歌山県、埼玉県、東京都、岩手県、などから活発な意見が出されました。公認大会の参加費による支援金についての減額の意見や支援対象を広げてほしい、新規地図作成への支援がほしいといった意見が出る一方で、財源は減らさない方がよいという慎重論も出ました。

その他、活動事例としては群馬県からスポレク大会への参加のお願い、静岡県からはセミ常設コースによる地図利用の促進など、普及につながるアイデアが報告されました。

理事会、業務執行理事会ではこうした意見を踏まえ、議論を進めると同時に、会員やオリエンティアの皆さんにより納得していただける会員支援の在り方を、引き続き検討してまいります。

●平成30年度第1回イベントアドバイザー研修会のお知らせ（業務執行理事：平島）

日時：平成30年9月1日（土） 10時～16時

場所：兵庫県尼崎市 尼崎リサーチ・インキュベーションセンター 研修室

内容：（予定）

- 1) イベントアドバイザーの役割
- 2) H28年度改正された競技関連規則類
- 3) アンチドーピングについて
- 4) イベントアドバイザーの報告と討議

詳細は、JOA ホームページでご確認ください。

(http://www.orienteering.or.jp/archives/2018/0713_301.php)